

広島県府中市立府南学園
(第一中学校・国府小学校・栗生小学校・旭小学校・南小学校)

1 地区概要		
・府中学園に記載		
2 小中一貫教育導入の経緯		
・府中学園に記載 ・第一中学校では教員への暴力や卒業時の進路未決定のような生徒指導面の課題あり。		
3 小中一貫教育の実施形態		
・府中学園に記載		
4 教育課程の編成と運営		
・府南学園は、第一中学校と国府小学校、栗生小学校、旭小学校、南小学校の四つの小学校で構成されている。地理的に第一中学校と国府小学校は隣接しているが、そのほかの三つの小学校とは2～5km程離れており、施設隣接型と施設分離型の併用型での小中一貫教育が行われている。		
学校名	児童生徒数	学級数(特別支援学級数：内数)
第一中学校	432名	15学級(3学級)
国府小学校	329名	15学級(3学級)
栗生小学校	142名	8学級(2学級)
旭小学校	274名	14学級(2学級)
南小学校	160名	9学級(3学級)
合計	1,337名	中15学級、小46学級
<p>・「学びをつなぐ(9年間を見通した学習指導)」「教職員をつなぐ(相互乗り入れ授業、合同研修会)」「かかわる力をつなぐ(五校合同挨拶運動、児童生徒会合同研修会)」という三つの取組みを実施。</p> <p>・乗り入れ授業は、各教員がチームティーチングの補助的教員(いわゆるT2)として異校種の授業に入り、異校種の学習指導を確認することが中心である。</p> <p>・かつては全教職員に対する小中学校での兼務発令が出されていた時期もあったが、府南学園の地理的状況や全てT2として乗り入れ授業をしている状況も考慮して、現在は出されていない。</p> <p>・市費で中学校に体育教員を配置しており、第一中学校に隣接する南小学校で5・6年の体育の授業にもT2として乗り入れているが、他の小学校には、授業前後の移動のために空きコマが生じる等の課題があり、乗り入れを行っていない。与えられた環境で可能な取組に業務改善した。小学校間に乗り入れ授業の面で差をつけているものの、各小学校での独自性を認める学園運営をしているため、特に大きな不満は出ていないとのこと。</p>		
5 小中一貫教育の成果		
<p>・府南学園では、全国学力・学習状況調査や県の「基礎・基本」定着状況調査において、どの調査対象科目でも県平均を上回る通過率となった。</p> <p>・児童生徒の姿が変わってきたと学校側は感じている。</p> <p>・教職員間の交流機会が増えた。</p>		
6 小中一貫教育の課題		
・府南学園では、小中間の乗り入れ授業で、振り返りや整理を行う時間が取れず、小中一貫教育の取組みが目的化してしまったという問題が生じ、取組みの中で何を残し、何を止めるべきかという検討がなされ、できる部分に絞って取り組むという業務改善が行われた。		
7 小中一貫教育の特色		
・府南学園は「併用型」の5校による取組という与えられた環境の中で、子供たちのためにできることをやろうという考え方で、見える小中一貫教育ではなく、機能する小中一貫教育を目指して取り組む事例といえる。		

(参考文献「初等中等教育の学校体系に関する研究報告書2 小中一貫教育の成果と課題に関する調査研究(平成27年8月)国立教育政策研究所」)